

令和元年度 川崎市岡本太郎美術館

事業報告・評価書

川崎市岡本太郎美術館

目次

1	展覧会事業	
	(1) 企画展	
	①「岡本太郎と日本の伝統」展	1
	②川崎市岡本太郎美術館 20 周年記念展	
	「これまでの企画展みんな見せます！」前期	3
	③川崎市岡本太郎美術館 20 周年記念展	
	「これまでの企画展みんな見せます！」後期	4
	④「第 23 回岡本太郎現代芸術賞 (TARO 賞)」展	6
	(2) 常設展	
	①「開運 岡本“福”太郎」展	8
	②「岡本太郎“聖家族”」展	9
2	資料収集・整理、調査研究	11
3	作品の保存・修復、貸出	12
4	普及企画	14
5	広報活動	24
6	施設・設備の整備	26

令和元年度事業報告について

1 展覧会事業

(1) 企画展

事業名	① 「岡本太郎と日本の伝統」展
会期	2019年4月27日(土)～6月30日(日)
目標	<p>1951年11月、岡本太郎は東京国立博物館において縄文土器と出会い、その4次元的な造形力に衝撃を覚え翌年、美術雑誌『みづゑ』に「四次元との対話—縄文土器論」を発表する。これに端を発し、岡本は、いわゆる「わび」「さび」とは異なる、他の東アジア地域からの文化的影響を受容する以前の、本来の日本の文化、日本人の美意識とは何かについて考察を深め、1956年、著書『日本の伝統』として結実させた。</p> <p>同書のために、岡本は、縄文土器・土偶、京都の古刹の中世の庭などを、自らシャッターを切ってカメラに収めた。</p> <p>本展覧会は、岡本の著作『日本の伝統』を中心に、岡本による写真作品を通して、「伝統」とは何かを再考する機会となることを願って開催した。</p>
内容	<p>1. 展示作品： 岡本太郎 写真：192点、油彩：10点、彫刻：5点、インダストリアル作品：約10点 小沢 剛：《岡本三太郎「醤油画（尾形光琳）」》2007年、醤油画、シルクスクリーン 高橋コレクション蔵 《醤油画掛軸（フランク・ステラ+長谷川等伯）一対》醤油画、作家蔵 天明屋尚：《漢字燕子花図具羅富異帝杉戸絵 一撃必殺特攻隊》2000年、アクリル絵具、金箔、杉戸、高橋コレクション蔵 《黒漆机器人形兜披風図屏風》2016年、アクリル絵具、金箔、木、個人蔵 鈴木伸吾：《枯山水 南の島》2019年、ミクストメディア</p> <p>2. 展示構成： 第1部 縄文の発見、第2部 中世の庭、第3部 光琳論 ～伝統とは創造である～、第4部「今日の『日本の伝統』の芸術」</p> <p>3. 主 催： 川崎市岡本太郎美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会</p> <p>4. 関連イベント： (1) 公開シンポジウム「日本美術にとって伝統とは何か」 開催日時： 2019年6月2日(日) 10:00～16:00 構 成： 第一部 ① 花井久穂氏（東京国立近代美術館主任研究員）：『日本の伝統』と埴輪 ② 島尾 新氏（学習院大学教授）： 『日本の伝統』と雪舟 ③ 玉蟲敏子氏（武蔵野美術大学教授）： 『日本の伝統』と琳派 ④ 稲賀繁美氏（国際日本文化研究センター教授）：『日本の伝統』とイサム・ノグチ</p>

	<p>⑤ 三浦 篤氏（東京大学教授）： 『日本の伝統』とジャポニスム」</p> <p>⑥ 佐々木秀憲（川崎市岡本太郎美術館）： 『日本の伝統』と岡本太郎」</p> <p>第二部 討論「日本美術にとって伝統とは何か」（モデレーター：稲賀繁美氏）</p> <p>会 場： かわさき宙（そら）と緑の科学館 2階 学習室1・2・3</p> <p>参加者数：約80名</p> <p>(2) 担当学芸員によるギャラリートーク（佐々木）</p> <p>6月15日（土）および6月30日（日）13:30より実施。参加者数各約30名。</p>
--	--

内部評価(自己点検)	
[実施状況・成果等]	<p>平成から令和に移行する時期に開催した企画展として、日本の「伝統」について、岡本太郎著『日本の伝統』を基に、再考する機会として開催した。4月初旬より、常設展示室が天井工事のために閉室となったことから、企画展示室の中に、一部、常設展示に相当する部分（油彩等）を構成する必要があり、工夫を要した。近年の縄文土器ブームによる岡本太郎撮影による縄文土器写真全公開の要望が少なからずあり、著作権継承団体、および当館学芸内で協議の上、未公表写真も展示した。縄文時代の研究者、ジャポニスム研究者、伝統論研究者など、多くの識者から高く評価された。展覧会図録は、インスタレーション作品を収録する関係で、5月28日の刊行となったが、多くの識者によって高く評価された。</p> <p>また、公開シンポジウムは、近現代美術を専門とする多くの学識経験者・大学教授等の参加があり、岡本太郎研究の進展を紹介することができ、今後の岡本太郎研究の進展を促進に寄与した。当該シンポジウム参加者の40%以上が昼休みに展覧会鑑賞の為に入館した。</p>
[課題・反省等]	<p>研究者、および学術団体からは高く評価されたが、当館での入場者数は振るわなかった。本展覧会を縮小した内容の展覧会を12月26日～1月24日まで（24日間）大分県立美術館に巡回したが、17,300人の入場者があり、想定8,000人の2倍以上の入場者があった。このことより、当館に於ける入場者数が振るわなかった原因については更なる分析が必要であると考えられる。</p>

[外部評価] 意見（評価できる点や課題など）[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]	
<p>・多角的な視点で岡本太郎をみせる試みだと思う。（大分での展覧会の入場者数が上回っていたのは、地方で岡本太郎に触れる機会が少ないせいもあるのでは。）</p> <p>・日本人の伝統意識を根底から変えたのは岡本太郎であるが、それを著書「日本の伝統」と192点の写真で検証してみせる展覧会である。さらに小沢剛、天明屋尚、鈴木伸吾の作品と公開シンポジウムで厚みを出すことに成功した。学術的意義も高い試みである。</p> <p>・岡本太郎が縄文を発見した経緯は定着しつつあるが、図録のテキストで佐々木秀憲氏が「レッド・ページ（マッカーシズム）」と岡本太郎の縄文論を関連付けているところに興味を持った。何か危機意識を持ちながらカメラを向けていたのだろうか。作家論をそこまで分析することによって時代に直面する作家の姿が浮かび上がってくる。</p>	A

<p>・かつてより知られていたテーマを、縄文ブームの時期に開催した着眼点がある。岡本が縄文の何を見たかを明らかにした意義だけでなく、著名作品も交えて、ポピュラリティーも得ている。写真には撮影年とプリント作成年の両方を期すことが望ましい</p> <p>・岡本太郎の視点から「伝統」を再考するというテーマで、展示、専門家とのディスカッションプログラム、カタログの刊行を行うという意欲的な企画であった点は高く評価できる。その一方で、来場者(1日あたりの入館者数)が伸びなかったという点で、このテーマを展示、プログラムを通して、広く一般と共有したいという点において、それが今一步達せられなかったと言える。</p>	
--	--

事業名	② 岡本太郎美術館20周年記念展 これまでの企画展みんな見せます！ 前期「岡本太郎 縄文から現代へ」
会期	2019年7月13日(土)～10月14日(月・祝)
目標	<p>生前の岡本太郎氏から川崎市が2千点におよぶ主要作品の寄贈を受け、1999年10月に岡本太郎美術館が開館し今年で20年を迎える。</p> <p>岡本太郎美術館では開館以来、常設展示室での収蔵作品展示のほか、企画展として、「岡本太郎を顕彰しその芸術性を探るもの」、「岡本太郎が交流した作家とその時代」、「芸術と社会との関わり」を企画展のテーマとして展覧会を開催してきた。20年の間に開催したこれらの企画展は約60回となる。開館20周年の記念として、これまでに開催してきた企画展をもう一度振り返り、展覧会を象徴する代表的作品や資料を抽出し展示する展覧会を、前期と後期に分けて開催する。</p> <p>前期展では、岡本太郎の多面的な活動の足跡と、縄文土器から民族の源流を探るフィールドワークの旅、そして岡本太郎と関わりの深い同時代の作家を紹介する。こうした事業を通じて、20年の美術館の様々な事業を振り返り、多くの方々と共有して館への理解を頂くとともに、今後美術館としての更なる役割を見出すきっかけとしたい。</p>
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・30回の企画展から代表作品、資料の展示 ・20年間の展覧会をダイジェストで紹介する映像 ・太陽の塔VR体験、二子流鬼剣舞の演舞、太郎 de くんくんウォーク、自分や一めた・変身して美術館で写真を撮ろうWSなどの関連イベント ・会期中20周年記念TAROシールの無料配布 ・開館20周年記念誌(これまでの企画展、常設展、TARO賞の記録を網羅した書籍)の刊行

内部評価(自己点検)
[実施状況・成果等]
常設展示室工事のため企画展示室のみでの開館となったが、岡本太郎の代表作品を始め、縄文、メキシコ、韓国、パプアニューギニアなど関連する資料展示を行い、前期展の趣旨を明確に展示できた。

過去 20 年の企画展を振り返る映像やイベントを盛り込みこれまでの歩みを俯瞰的に見る構成は 20 周年だからこそ企画となった。
[課題・反省等]
常設展の工事の影響を鑑み、岡本太郎作品を充実させたが、常設展が見られないという来館者のイメージが今一つ集客に結びつかなかったように感じる。

[外部評価] 意見 (評価できる点や課題など) [A : 十分に達成 B : 概ね達成 C : 達成に至らず]	
<ul style="list-style-type: none"> ・パプアニューギニアなどの資料が興味深かった。 ・美術館の開館 20 周年を記念する試みの前半。30 回分の展示会を紹介したコーナーは圧巻であった。作品展示としては岡本太郎の代表作の多くが網羅され、異文化ハンターとしての彼の全貌がよく窺われたと思う。 ・『これまでの企画展みんな見せます!』のキャッチコピーが、思わず全部みられるのかな、それでは行ってみようと思わせてよかった。 ・周年記念展として類例がなく、思い切った企画力を感じる。美術館としての意義があると思う反面、一般の来館者にとっては、美術館の歴史を見るという趣旨は、慣れていないため理解されにくい可能性がある ・美術館開館 20 周年を記念して、約 60 回のこれまでの企画展を前期後期で振り返る、特に前期では、岡本太郎の代表作を見せるとともに、フィールドワークを通じた民俗資料との関わりや、同時代の作家との関わりを展示やプログラムを通して紹介するという目的を達していた、という点でこの評価とした。また、20 年間の展示会を紹介する映像や記念誌の刊行を通して、これまでの歩みをまとめ、共有したことも評価ができる。 	A

事業名	③ 岡本太郎美術館 20 周年記念展 これまでの企画展みんな見せます！ 後期「芸術と社会 現代の作家たち」
会期	2019 年 10 月 26 日 (土) ~ 2020 年 1 月 13 日 (月・祝)
目標	<p>生前の岡本太郎氏から川崎市が 2 千点におよぶ主要作品の寄贈を受け、1999 年 10 月に岡本太郎美術館が開館し今年で 20 年を迎える。岡本太郎美術館では開館以来、企画展として、「岡本太郎を顕彰しその芸術性を探るもの」「岡本太郎が交流した作家とその時代」「芸術と社会の関わり」「次世代を創造する作家への支援」をテーマに展示会を開催してきた。20 年の間に開催した企画展は約 60 回となる。</p> <p>後期展では「芸術と社会の関わり」「次世代を創造する作家への支援」「岡本太郎が交流した作家とその時代」をテーマにした企画展を紹介する。「芸術と社会の関わり」では、震災という日本人とは切っても切れない災害の問題、食や鉄道といった日常のモチーフ、あるいはゴジラやウルトラマンといった映画やテレビのキャラクターなど、一見芸術とは無縁と思われる社会的な事象と芸術との関わりに焦点をあてた展示会を紹介。「次世代を創造する作家への支援」からは、TARO 賞の作家を中心とする現代の作家た</p>

	<p>ちを紹介する。「岡本太郎が交流した作家とその時代」では、池田龍雄、北代省三、村上善男、土方巽、小野佐世男などの作品を展示してその関わりと時代について紹介する。</p> <p>本展を通じて、20年間の美術館の事業を振り返り、多くの方々と共有することで美術館への理解を頂くとともに、今後の美術館の更なる役割を見出すきっかけとしたい。</p>
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 30回の企画展から代表作品、資料を展示 粟野ユミト、安藤榮作、池田龍雄、石内都、市川平、今井紀彰、小野佐世男、角文平、金沢健一、北代省三、佐内正史、高橋士郎、棚田康司、タムラサトル、多和圭三、中山ダイスケ、ヒグマ春夫、土方巽、日高理恵子、日比野克彦、藤井健仁、間島領一、村上善男、山口勝弘、横井山泰、(50音順) ウルトラマン、ゴジラ ・ 20年間の展覧会をダイジェストで紹介する映像 ・ 角文平ワークショップ、ウルトラセブン握手・撮影会、茶会 游喜庵、ヒグマ春夫×高宮梢のダンスパフォーマンス ・ 岡本太郎美術館収蔵品目録の刊行

内部評価(自己点検)

[実施状況・成果等]

20周年後期展として近・現代作家とゴジラ、ウルトラマンが一つの空間に展示されることについて岡本太郎美術館ならではの企画展となった。記念事業として開館後初めての記念誌と目録を刊行できた。企業、商店会など、地域と連携し多くの支援を頂いて記念事業ができたことは地方自治体の施設として良い成果だった。

[課題・反省等]

天候に左右される館ではあるが、暖冬にも関わらず目標とする来館者数に達しなかった。過去を振り返ることが展示の目的ではあるが、来館者にとってはこれまでにない新しい作品に対する関心や要求を満たす必要もあった。

[外部評価] 意見 (評価できる点や課題など) [A:十分に達成 B:概ね達成 C:達成に至らず]

- ・ 現代作家との関係などはよく見えた展覧会だったが、展示作品数が多く少しわかりにくく感じたが、岡本太郎美術館らしい展示かもしれない。
- ・ 東日本大震災の発生、ゴジラ・ウルトラマンなどサブカルチャー・ブームの到来と、日本社会は目まぐるしく変化してきた。社会派作家の側面をもつ岡本太郎は、それらのどれとも不思議に深くつながっている。この20周年記念展は、まさに展示を通して社会をみつめつづけた太郎の先見性を確認するレトロスペクティブでもあったように思う。
- ・ 日本の作家の作品は社会性が不足しているといわれる。アカデミックな描写の技術に関心が集中するからであろう。岡本太郎から学ぶことは芸術と社会の問題である。
- ・ 前期と同様の課題はあるものの、美術館活動のなかで関係を作り上げてきた現代作家

A

<p>私たちは川崎市立岡本太郎美術館の今後の美術館運営のなかで重要な財産ともいえる。周年記念の展覧に出品していただく意義がある。</p> <p>・美術館開館 20 周年を記念して、約 60 回のこれまでの企画展を振り返る展示の後期展となる。前期展と同様、これまでを振り返り、これからを考える上で重要な取り組みであったが、来場者数をもう少し増やすための方策を考える必要があった、という点からこの評価とした。とはいえ、TARO 賞の作家を中心とする現代作家を紹介することで、次世代の作家を支援したこと、また収蔵品目録を作成したことは、重要な取り組みとして評価できる。</p>	
---	--

事業名	④ 「第 23 回岡本太郎現代芸術賞 (TARO 賞)」展
会期	2020 年 2 月 14 日 (金) ～ 4 月 12 日 (日)
目標	「岡本太郎現代芸術賞」は、岡本太郎の精神を継承し、自由な視点と発想で、現代社会に鋭いメッセージを突きつける作家を顕彰するため設立された。今年で 23 回目をむかえる本賞を通し、21 世紀における芸術の新しい可能性を探り、意欲的な作品を紹介する。
内容	<p>本年度は、452 組の応募があり、23 組の作家が入選。最終審査の結果、岡本太郎賞 1 名、岡本敏子賞 1 名、特別賞 5 名が選出された。</p> <p>岡本太郎賞：野々上聡人《ラブレター》</p> <p>岡本敏子賞：根本裕子《野良犬》</p> <p>特別賞：澤井昌平《風景》、藤原千也《太陽のふね》、本濃研太《僕の DNA が知っている》、村上力《㊦一品洞「美術の力」》、森貴之《View Tracing》</p> <p>入選：浅川正樹、井上直、大石早矢香、大小田万侑子、桂典子、小嶋晶、佐藤圭一、笹田晋平、そんたくズ、高島亮三、春田美咲、藤田淑子、松藤孝一、丸山喬平、水戸部春菜、村田勇氣</p> <p>関連イベントとして、作家によるギャラリートーク、来場者による人気投票、来場者から作家への「お手紙プロジェクト」を実施。</p>

内部評価(自己点検)
[実施状況・成果等]
<p>搬入作業、展示設営とも作家の協力によって順調に終えることができた。</p> <p>昨年度に引き続き、展示設営時にヘルメットと安全帯を用意し、高所作業を行う際には着用をうながす声掛けを行った。</p>

[課題・反省等]

木材等を使った作品については、各作家に燻蒸などの事前準備を徹底するように伝えているが、それに関わる経費は全て作家負担であることから、専門業者による燻蒸は難しいのが現状である。経過を注意深く見ながら対処していきたい。

[外部評価] 意見 (評価できる点や課題など) [A :十分に達成 B :概ね達成 C :達成に至らず]

・力作が多く、見応えがあった。プリミティヴな原点回帰のパワーを感じた。

・前回にくらべ今回は、脳裡に突き刺さってくるような刺激に富んだ作品は、少なかつたように思う。しかし、どの作品も力いっぱい制作したことが見て取れる、力作と聞いていいだろう。それが新型コロナウイルス騒ぎのなかでも、客足が途絶えることなくつづいた要因であったと思う。

・現代芸術の分野で一般公募の方法で門戸を開いている展覧会の存在は、規則づくめの世の中にあって自由奔放な岡本太郎の精神を伝えてゆく意味で貴重である。

・完結した作品の展示から、現在進行中のインスタレーションまで、あるいは個室型から、他の作品と隣り合わせのオープンスペース型まで、作家の制作欲が美術館のスペースの可能性に挑戦しているところも貴重である。

・TARO 賞は、ほかに例のないコンクールとして、なくてはならない存在に成長した。ここから現代作家との関係が作られるので今後とも続けてほしい。

・今回で 23 回目となる本展には、昨年度より約 40 点多い応募があり、また応募者の世代やジャンルも、現代アートや若手に限定されず、幅広い層からの応募を受けていること、またそれぞれの個性とメッセージが強く感じられる作品がそこから選ばれており、非常に見応えのある展示になっていたこと、また来場者による人気投票、「お手紙プロジェクト」といった、生きている作家や作品と鑑賞者をつなぐプログラムも行われている。

A

(2) 常設展

事業名	常設展① 「開運 岡本“福”太郎」
会期	2019年10月19日(土)～2020年1月13日(月・祝)
目標	約半年の休室を経て、開館20周年を記念し、「開運」をテーマとした展示を開催する。岡本太郎は油彩や彫刻に留まらず、版画やインテリア、グラフィック、写真、著述など幅広い制作を行っていた。一方で、逆境や危険にあえて立ち向かう岡本の芸術は一貫して力強いエネルギーを持っている。本展では開館20周年を記念し、岡本の様々なジャンルの作品を集結させる。また、来館者の方々の運が開けることを願い、岡本の重要なモチーフである「太陽」をはじめとした縁起のよい色・形・主題などを、高天麗舟氏の特別監修による風水調整を取り入れた展示構成によって紹介する。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・油彩 《駄々っ子》《重工業》《マスク》《傷ましき腕》《夜》《空間》《美女と野獣》 《まひるの生物》《風》《赤のアイコン》《風神》《天に舞う》他 ・彫刻 《手一赤》《手一青》《若い太陽の塔》《躍進》《出発》《樹霊Ⅰ》《夢の樹》《樹霊Ⅱ》 《犬の植木鉢》《平和を呼ぶ》《顔の植木鉢》《太陽》《太陽の塔》《動物》 《若い太陽の顔》《リョウラン》《風鐸》《樹人》《若い時計台》《祭り》《誇り》 《女神像》《歓びの鐘》《飛行船「レインボー号」》《喜び》《光る彫刻》他 ・その他 ドローイング、インテリア、写真パネル、ポスター、民芸品コレクション、 椅子各種、陶器、版画、他 (テーマ展示室含む)

内部評価(自己点検)

[実施状況・成果等]

開館20周年に合わせ、油彩、彫刻、ドローイング、版画、インダストリアルデザイン、関連ポスター、陶器など岡本太郎の様々なジャンルの作品・資料を一堂に会した常設展。高天麗舟氏の特別監修による風水調整に合わせて作品配置を行った。岡本太郎が所有していた日本各地の民芸品も、各地で撮影された写真パネルと合わせて紹介。解説パネルでは主に方位ごとの風水調整を紹介したため、ワンポイントトークでは合わせて作品の解説を行った。

[課題・反省等]

来館者から風水調整と作品の関係性が不透明だったという意見もあり、風水調整を取り入れた理由など、展示の導入部での解説に工夫が必要であったかもしれない。展示構成の都合上、一部の作品が鑑賞しにくい配置となったため、今後の展示の留意点としたい。

[外部評価] 意見(評価できる点や課題など) [A:十分に達成 B:概ね達成 C:達成に至らず]

・福を呼んでくれそうな楽しい展示だった。
・「喜」の扇子や瑞鳥など、岡本太郎には遊び心を感じさせる小品・小物類が多い。それらを見逃さず、一堂に集めてみせたのが本展とあっていいだろう。常設展にはこのくらいのユニークさのあった方が、楽しめるのではなかろうか。

B

<p>・着眼点が新鮮。風水を持ち込むというアイデアも楽しいが、その実現にはいろいろな方法が必要になるかもしれない。</p> <p>・開館 20 周年と休室後のリニューアルオープンから、「開運」「縁起の良い」というユニークな切り口で、太郎の多様なジャンルの作品を展示したこと、他の美術館では類を見ない、風水調整を取り入れた展示構成にチャレンジした。</p>	
---	--

事業名	常設展② 「岡本太郎 “聖家族”」展
会期	2020 年 1 月 17 日（金）～ 4 月 12 日（日）
目標	漫画家である父・岡本一平と、小説家であり歌人の母・岡本かの子を両親に持つ岡本太郎。家族と関わりの深かった小説家・川端康成は、この家族を“聖家族”と呼んだ。本展では、岡本太郎・一平・かの子の作品も紹介するとともに、彼らの日常生活を写す日用品や写真を展示し、芸術に生きた一家の足跡を辿る。
内容	<p>岡本太郎《森の家族》《母と子》《誇り》《顔》、岡本一平《漱石八態》《ひな人形飾》、岡本かの子《白梅》《観音経》《生々流転》、その他《かの子観音》、一平・かの子装身具など</p> <p>■常設展関連イベント</p> <p>①花音による朗読とおしゃべりトーク～太郎が語る両親の思い出～ 太郎が語る両親への思い出。また、両親とのやりとりが綴られたエッセイや手紙などを、お喋りをはさみながら紹介。 日時：2020 年 2 月 22 日（土）①15:00～15:30 ②17:30～18:30 出演：花音（朗読ユニット）</p> <p>②結純子ひとり芝居「太郎への手紙」【新型コロナウイルスの影響で中止】 母かの子が息子太郎に宛てた手紙の数々をもとに、女優・結純子が岡本かの子を演じる。 日時：2020 年 3 月 29 日（日）①15:00～15:30 ②17:30～18:30 出演：結純子（女優・演出家）</p>

内部評価(自己点検)
[実施状況・成果等]
<p>普段あまり展示室に出さないかの子・一平の作品を多く展示したほか、どのような家族だったのかについて観覧者に深く知っていただけるよう、一平・かの子・太郎が家族について言及した言葉や、家族の年表を展示室各所に設置した。</p> <p>写真撮影を可能にしたことで、TARO 賞と合わせて SNS 等に写真がアップロードされており、来館者の感想とともに展覧会の内容が発信されている。</p>
[課題・反省等]
<p>常設展示室内の写真撮影については、撮影のルールの周知に課題が残った。</p> <p>岡本一平・かの子は、掘り下げればより深い内容の展示ができると感じた。</p>

[外部評価] 意見 (評価できる点や課題など) [A :十分に達成 B :概ね達成 C :達成に至らず]

・洋服など家族の実像に迫る良い展示だった。

・岡本家の人々は、全員が著名人ばかりという極めて珍しい一家である。勢いゆかりの作品も多いことから、展覧会を構成する展示物には事欠かないだろうが、それぞれの内面にまで掘り下げていくとなると、これはまた容易ならざる作業となる。本展はその関係を川端康成いうところの「聖家族」という一語に集約し、うまくまとめていた。文学好きの観客にも満足を与えせれる展示になったと思う。

・かの子と一平の視点から捉えた家族論をもっと大がかりに取り組むことも可能な内容であった。あるいは神奈川近代文学館などと協力してやることも可能ではないだろうか。

・こちらの美術館の特徴である、岡本太郎だけでなく、その著名な両親の関連作品、資料を所蔵されていることだと思います。様々な切り口、例えば、パリ旅行に絞るなど、今後もヴァリエーションが考えられそう。

・岡本太郎のみならず、本館にとって重要な資源である、彼の両親である岡本一平、かの子夫妻の可能性を掘り下げた、意欲的な展示である点、また、太郎は知っているが、その両親については知らない人が多い若い世代に新たな関心と呼ぶことができる可能性があることを可視化したということから、この評価とした。関連イベントについても、これまでにない切り口から企画されており、新型コロナウイルスの関係で行えなかったものがあつたことが残念であった。

A

2 資料収集・整理、調査研究

事業名	資料収集・整理、調査研究
目標	当館の収集方針にそって岡本太郎、ならびに一平、かの子、関連作家の作品・資料を中心に収集する。
内容	<p>1 購入資料：</p> <p>①池田龍雄《「ゆりかご」化け物の系譜シリーズ》 インク、鉛筆、水彩・紙 1956年 ¥595,000（税別）</p> <p>②池田龍雄《内灘スケッチ》（計12点） 鉛筆、コンテ・紙 1953年 ¥240,000（税別）</p> <p>2 寄贈資料：岡本太郎関連資料一式</p> <p>3 寄託資料：岡本太郎関連グッズ一式</p>

内部評価(自己点検)

[実施状況・成果等]

購入資料に関し、作家ご自身の協力により、予算内で収集できた。

岡本太郎関連資料、収集品を寄贈頂いた。また、近年制作発売された岡本太郎関連グッズを寄贈頂いた。

[課題・反省等]

従来の「資料収取委員会」および「資料評価委員会」の2委員会が廃止されたことにより、現在は「資料審査会」として、資料に詳しい学識経験者にその都度、審査をお願いしているが、収集方針と対象資料との適合性に関して、学識経験者等による審議の場があることが望ましいと考える。

[外部評価] 意見（評価できる点や課題など） [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

・池田龍雄作品や、岡本太郎関連グッズなど貴重な収集が進んでおりよかった。

・寄贈資料、寄託資料ともに、玩具から民俗資料的な小物までを雑多に含んでいたようだが、もう少し踏み込んだ説明が欲しかった。他方池田龍雄作品は、岡本との内的なつながりまで感じさせる描写が認められ、大いに納得するコレクションになったと思う。収集委員会は、ぜひとも早急に開催していただきたいものだと思う。

・所蔵作品目録の刊行は大変重要な業績。資料も充実しているということで、美術界全体への貢献もあるといえる。今後も続行していただきたい。

・予算内での購入や、寄贈・寄託資料などの関連資料の充実もあったことからこの評価とした。その上で、より良い収集のために、単発ではない審査会の設置が望ましい。

A

3 作品の保存・修復、貸出

事業名	作品の保存・修復、貸出
目標	所蔵作品・資料の状態把握に努め、当館での展示に支障が生じないよう貸出の調整を行う。作品・資料の保存・管理業務を定期的に行い、適切な処置を施し、館内の良好な環境の維持に努める。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・岡本太郎作品を中心に、当館で所蔵する作品・資料の保存及び作品の状態を考慮した作品・資料の貸出を行う。 ・作品調書整備、作品修復業務、くん蒸業務など作品の保存・管理業務を定期的に行い、適切に処置する。 ・環境調査、酸アルカリ調査、温湿度調査、収蔵庫とその周辺の清掃作業など定期的に行い、館内の良好な環境を維持する。

内部評価(自己点検)

[実施状況・成果等]

[作品貸出]

- ・岡本太郎作品 2 点（油彩）を令和元年度安曇野高橋節郎記念美術館企画展「キュビズムと高橋節郎」展（会期:令和元年 7 月 5 日～9 月 26 日、会場:安曇野高橋節郎記念美術館）に貸出。
- ・岡本太郎撮影写真 1 点を葦崎大村美術館企画展「いのち～絵画と原始造形の美」展（会期:令和元年 9 月 1 日～12 月 1 日、会場:葦崎大村美術館）に貸出。
- ・岡本太郎作品 2 点（油彩、彫刻）を「描く、そして現れる―画家が彫刻を作るとき」展（会期:令和元年 9 月 14 日～12 月 8 日、会場:DIC 川村記念美術館）に貸出。
- ・岡本太郎撮影写真 2 点を「日本建築の自画像：探究者たちのもの語り」展（会期:令和元年 9 月 21 日～12 月 15 日、会場:香川県立ミュージアム）に貸出。
- ・岡本太郎作品 6 点（油彩、彫刻）を「ハート形土偶 大集合!! ―縄文のかたち・美、そして岡本太郎」展（会期:令和元年 9 月 28 日～12 月 1 日、会場:群馬県立歴史博物館）に貸出。
- ・北代省三作品 2 点を「北代省三『大型カメラの世界』」展（会期:令和元年 11 月 11 日～11 月 29 日、会場:東京パブリッシングハウス（横田茂ギャラリー））に貸出。
- ・岡本太郎作品（写真、油彩、彫刻）を「岡本太郎展 《明日の神話》から《太陽の塔》へ」（会期:令和元年 12 月 26 日～令和 2 年 1 月 24 日、会場:大分県立美術館）に貸出。

[作品修復]

岡本太郎《エクセホモ》1975 年、油彩・キャンバス
このほか、岡本太郎の油彩 6 点、額装 9 点を修復中。

[課題・反省等]

今年度の作品の貸出は、大分県立美術館において岡本太郎の写真作品を多数含む大型展を開催したこと、群馬県立歴史博物館での岡本作品の貸出や、複数館で写真作品の出品依頼があったことが特徴的であった。

今年度は絵画作品を収蔵する第 1 収蔵庫の酸性度が高い状態が続いている。酸性の詳細及び原因について調査している。

[外部評価] 意見（評価できる点や課題など） [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

- ・作品の貸出も活発に行われたようでよかった。
- ・川崎市市民ミュージアムは、台風 19 号によって甚大な被害を被ったと聞いている。とくに収蔵作品への水の被害は大変だったようだが、そのなかに岡本太郎関係のものもあるのではないかと推測される。市民ミュージアムはいま、きわめて厳しい状況にあるので、それらの作品を対象とした支援活動を展開していただきたい。岡本作品だけでも当館へ引き取り、修復作業にまわすことはできないものだろうか。
- ・修復は計画的に進められていて、順調だと思われる。貸し出しではお世話になりました。
- ・近年ますます高まる岡本太郎の評価と検証を反映した貸し出し数の増加に、適切に対応している。修復、保存のための処置も適切に行われている。

A

4 普及企画

事業名	普及企画
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育と連携し、学校現場の実情や要望を踏まえた鑑賞プログラムによる教育普及活動の推進。 ・幼児から大人まで幅広い年齢層が、美術や岡本太郎芸術に親しむことができるイベント、ワークショップを行い、開かれた美術館としてイメージアップを図るとともに、地域に根ざした芸術活動の中心的役割を目指す。 ・近隣の大学、専門学校、幼少中高等学校、地域商店街などと連携した事業を行い、地域との交流を高め美術館事業の活性化につなげる。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学校等の団体見学、校外授業のカリキュラムに応じたガイドや鑑賞活動を行う。 ・教育機関で活用する教材開発と貸し出し、活用例の紹介、出張授業を行う。 ・教育関係研究会、研修会等への招聘と参加を通じてより多くの教育機関と連携、協働した美術館活動を行う。 ・大学生、高校生をインターンシップやボランティアとして招聘し、美術館イベントへ参加受入れをするとともに、自ら考え、行動する自主性を重視した活動を行う。 ・幅広い層の来館者に対応した体験型イベントや年齢に応じた講座など来館者のニーズに沿ったイベント、ワークショップを行う。

内部評価(自己点検)

[実施状況・成果等]

《教育プログラム》(2020.2.1現在)

団体見学

学校や教育機関による団体での鑑賞学習や美術館を利用したグループ学習を学校と美術館が対象年齢や学習目的に応じて先生と美術館が話し合いながら鑑賞を行っている。今年度は、4月末から常設展示室の工事休室であるため、それに対応した企画展示室でのプログラムとして運用した。

鑑賞プログラムは、こどもの樹コース(ワークシートを手がかりに個人またはグループで鑑賞)、森の掬コース(スタッフによる対話による鑑賞)などコースを分けて、学校の要望に応えるべくプログラムの充実を図っている。1~3学年は森の掬コースの希望が多く、4~6学年はこどもの樹コース・森の掬コースの併用版(1,2作品対話による鑑賞)が多くなっている。

<今年度見学団体> 2020.2.1現在

幼稚園・保育園	4団体	133名
特別支援学校	11団体	174名
小・中学校	52団体	5751名
高校・大学	20団体	581名
その他	8団体	142名

2019.2.1

幼稚園・保育園	7団体	216名
特別支援学校	13団体	299名
小・中学校	69団体	7620名
高校・大学	25団体	846名
その他	6団体	120名

職場体験(27校)

中学・高校生に美術館の運営について施設の目的や内容を広く学んでもらうための活動である。学芸員、教育普及、施設管理、監視・受付、ミュージアムショップの仕事等を体験する。キャリア教育推進の傾向から今年度は昨年より9校増えている。東北からの高校、県立高校教員の社会体験研修、私立高校(保護者からの申し込み)、特別支援学校を受け入れた。

教材貸出(61校)

岡本太郎紹介ビデオ・DVD、作品をプリントしたもの(A5サイズ・A3)、岡本太郎の「遊ぶ字」をプリントしたもの、大型作品(5作品)を貸し出している。下見時貸出教材の紹介を必ず行い、それらを活用した事前学習を勧めた。貸出数が増えている。県外からの依頼も増えてきた。アートカード(今年度表紙を緑にリニューアル)は特に好評で、先生方の活用方法、活用実践例の要望が増えている。また大型作品(特に《森の掟》)の貸し出し依頼も多くなってきている。

出張プログラム(7校)

図工・美術科における鑑賞活動として、また異なる学年によるイベント、ワークショップとして、学校と美術館と一緒に鑑賞プログラムをつくり実施する。実施の1校は児童及びPTA講演会として保護者、地域の方に向けて行った。毎年中学校のふれあい体験講座ワークショップの依頼があったが新学習指導要領の実施に向けて取りやめる学校が出てきている。

職員研修(2団体)

図工・美術科における鑑賞活動について、鑑賞の仕方、アートカードを活用した鑑賞の方法等について研修の機会を要望する学校・研究会等に向けて行う。学校に出張する、美術館で行う等、担当者与方法・内容を相談して実施する。

《普及イベント》

<TARO 鯉にいどむ! inラゾーナ川崎プラザ>

ワークショップ 日程 2019年4月7日(日) 10:00~15:30

作品展示日程 2019年5月1日(水)~5月6日(月祝)

内 容 恒例となった TARO 鯉に挑む! を川崎駅に隣接しているラゾーナ川崎プラザのイベント会場で、出張ワークショップとして開催。事前申込の参加者に、岡本太郎の鯉のぼりへの思いを伝え、思い思いに制作してもらった。また、美術館の案内掲示を行い、来場者に岡本太郎美術館について知ってもらう機会につながった。

場 所 ラゾーナ川崎プラザ イベントスペース

料 金 無料

参加人数 120名

<TARO 鯉にいどむ！ 2019>

ワークショップ 日程 2019年①4月21日(日)、②28日(日)、③29日(月祝) 13:00~15:30

作品展示日程 2019年5月1日(水)~5月6日(月祝)

内 容 今年で7回目になるこのイベント、毎年恒例行事としてご家族で参加される方、屋外の展示を見て参加したいと思っていた方など、多くの方楽しんでいただいた。今年度は20周年特別企画として、170cmの特大サイズの鯉のぼりを制作する回も行った。TARO賞作家、メキシコ作家による30匹の鯉もギャラリースペースに展示し、ワークショップで制作した鯉を母の塔前広場にロープを5本つなぎ、200匹以上の鯉のぼりが泳いだ。

場 所 創作アトリエ、常設展示室、ギャラリースペース、母の塔前広場

料 金 無料(要観覧料)

参加人数 ① 29名 ② 21名 ③ 37名

協力作家 秋山佳奈子 白木英之 瀧川真紀子 竹内カズノリ 服部正志 檜皮一彦 藤原史江
宮内裕賀 宮田彩加 吉田絢乃

<こどもの樹をつくろう！>

ワークショップ 日程 2019年5月3日(金)~5月5日(日) 10:00~16:00

作品展示日程 2019年5月3日(金)~5月31日(金)

内 容 《こどもの樹》には、個性豊かな皆違う顔が並ぶ。昨年に引き続き、子供の樹の顔で作った塗り絵と自由に描ける丸い紙を用意し、みんなで自由に顔を描いて《こどもの樹》を作った。ゴールデンウィーク中の小さい子供づれのご家族や大人の方にも楽しんでいただいた。多くの方にご参加いただき、賑やかなイベントとなった。

場 所 ギャラリースペース

料 金 無料

参加人数 5/3:277名 5/4:214名 5/5:222名 合計713名

<はいはい&よちよち美術館ツアー>

日 時 ①2019年4月10日(水) ②5月15日(水) ③6月12日(水) ④9月11日(水)

⑤11月14日(水) ⑥2020年2月19日(水)

~~⑦3月11日(水)~~【新型コロナウイルスの影響で中止】 各日10:30~11:30

内 容 親子で一緒に鑑賞を楽しみ、お子さんの反応を確かめながらお子さんの様子を通して作品をみてもらったり、作品を介しての親子のコミュニケーションを図ったりなど、小さな子に無理なく美術館の雰囲気味わってもらったりする鑑賞会を行った。抱っこで回るグループ、歩きながら回るグループとそれぞれ分かれて行った。

場 所 ガイダンスホール~常設展示室

対 象 3か月~3才の幼児とご家族 先着10組

講 師 普及企画

料 金 要観覧料

参加人数 ①11名 ②19名 ③20名 ④14名(7組) ⑤17名(8組) ⑥16名(8組)
⑦【中止】 事前電話受付

<祝!!20周年 出張展示川崎市岡本太郎美術館>

日 時 ①中原図書館 2019年5月18日(土)～6月1日(土)
*岡本太郎美術館20周年記念ミニ講演:5月26日(日)14:00～14:45
②高津市民館 2019年6月21日(金)～7月3日(水)

内 容 川崎市岡本太郎美術館は、川崎市ゆかりのアーティストの個人美術館として川崎市民に親しまれ、開館から現在まで60を超える展覧会を開催してきた。美術館20周年記念出張展示として、川崎市内の施設でこれまでの企画展ポスターや作品パネル、図録などを展示し、より多くの方に美術館の活動と岡本太郎について知っていただく機会となった。展示期間中に学芸員による岡本かの子と太郎の川崎との繋がりについての岡本太郎美術館20周年記念ミニ講演「岡本かの子と太郎『生々流転』と多摩川～岡本かの子生誕130年～」を開催し、定員を超える応募があった。

場 所 ①中原図書館 6階多目的室
②高津市民館 11階ウォール展示

料 金 無料

<キッズ写真展 —テーマ“なんだ?これは!!”—>

日 時 募集期間:2019年4月27日(土)～5月26日(日)
展示期間:2019年6月8日(土)～6月30日(日)

内 容 「岡本太郎と日本の伝統」展にあわせ、子どもが撮影した写真による「キッズ写真展」を開催。0歳～12歳のお子さんからの応募があり、子どもの大人と異なる視点やユニークな写真やタイトルを楽しむ展示となった。

場 所 美術館ギャラリースペース

応募総数 33点

<中学生「夏休みの宿題手伝います」ツアー>

日 時 2019年①7月25日(木) ②26日(金)③8月21日(水) ④22日(木) 10:00～11:00

内 容 今年で3年目となる中学生向けの美術館見学ツアー。中学校では夏休みの課題として美術館に行って感想をかいいたり、新聞をつくったりする学校が多く、美術館スタッフによるツアーをおこなうようになった。今年度は、美術館の役割にも触れ、作品だけでなく美術館自体にも興味・関心向けることができるようなワークシートを作成。友達や家族と一緒に参加し、作品の話をしながら鑑賞したり、一人で真剣に作品を見たりしている姿などさまざまであった。

場 所 企画展示室

講 師 普及企画

料 金 無料
参加人数 ①23名 ②20名 ③23名 ④9名 当日申込

<じゅえき太郎とゆるふわ昆虫戯画>

日 時 2019年8月11日(日) 13:30~15:30
内 容 TARO賞入選作家「じゅえき太郎」と iPad で世界にひとつだけのオリジナルムシキャラを制作した。人気作家のイベントとあり、初めて来館される方も多く、作家の視点からの太郎作品の話や一緒に制作する時間を楽しんでいた。制作した参加者のムシキャラを登場させた“ゆるふわ昆虫戯画”をじゅえき太郎さんに制作いただき、ギャラリースペースでの展示、美術館HPやじゅえき太郎さんのSNSでの発表など、イベント成果の新たな発表方法を試みた。

場 所 企画展示室、創作アトリエ、ギャラリースペース
対 象 小学3年生~中学生
講 師 じゅえき太郎
料 金 500円+観覧料
参加人数 45名 事前電話受付
ギャラリー展示 8月24日(土)~9月29日(日)

<テキスタイルで遊ぼう！>

日 時 2019年8月15日(木) 10:30~12:00/14:00~15:30
内 容 岡本太郎やアーティストが集まって、軍手やホウキ、キャベツや大根といった日用品や野菜を使って、テキスタイルのデザインを行ったことがあった。野菜や日用品で、自由にいたずらっ子のように無邪気に制作されたテキスタイルは、遊び心と楽しさがあふれるデザイン。太郎さんと同じようにのびのびした遊び心で、自由にデザインを楽しむイベントとなった。

場 所 企画展示室、創作アトリエ
対 象 小学生以上
料 金 500円+観覧料
参加人数 78名 事前電話受付

<サマーミュージアム『TARO 缶バッジをつくろう』>

日 時 2019年8月18日(日) ①11:00~ ②14:00~
内 容 生田緑地全体で開催されたイベント「サマーミュージアム」内の美術館事業として、100名限定でオリジナル TARO 缶バッジをつくった。《こどもの樹》《坐ることを拒否する椅子》の塗り絵を用意し自由に色を塗りオリジナルの缶バッジを作れるとあって、家族連れを中心に賑やかなイベントとなった。

場 所 企画展示室

対 象 どなたでも
料 金 100 円
参加人数 182 名 (先着順/整理券配布)

<プレミアム TARO ナイト>

日 時 2019 年 8 月 30 日 (金) 17:00~20:00
内 容 一昨年より始まったプレミアム TARO ナイトは、今年で三回目の開催となった。美術館の夜間開館を行うとともに、母の塔のライトアップ、母の塔前広場においてライブの開催、BAR TARO を臨時開店し夏の夜をアートと美味しいお酒で楽しんでいただいた。企画展示室では、イベント“美術館 20 周年記展で謎解き”を開催した。

場 所 母の塔広場、企画展示室

対 象 どなたでも

演 奏 Toshi Kuga (チベット三味線) / 流間蛙(ギター)
えぐさゆうこ (歌手・ナレーター、vocal・三味線・語り・踊り) /
熊坂路得子 (アコーディオン) / 布井あやみ (タヒチダンス)

料 金 無料 入館者は要観覧料 (2 割引)

入館者数 139 名 (17:00 以降入館者)

展示室イベント参加者 152 名

ライブ観覧者 427 名

<ナイトミュージアム>

日 時 2019 年 9 月 7 日 (土) 17:00~20:00

内 容 学芸員のギャラリートัวร์と普段見ることの出来ないバックヤードの一部を公開する大人限定のイベント。常設展をガイドツアー形式で観覧後、バックヤードを見学した。その後、各々で展覧会をご覧いただき、カフェやショップでも自由にゆっくりと過ごす時間となった。

場 所 企画展示室、バックヤード、収蔵庫

対 象 20 歳以上

講 師 学芸

料 金 2000 円 (入館料、ワンドリンク、ミュージアムショップ 500 円券 付き)

参加人数 20 名 事前電話受付

< “私の《太陽の塔》” をかいて、つくって、おめでトウ! >

日 時 2019 年①9 月 28 日 (土) ②29 日 (日) 13:00~15:30

内 容 岡本太郎はどのような気持ちで作品を生み出したのか思いを巡らせながら展示をまわり、“私の《太陽の塔》” を 1 日目は絵画、2 日目は立体で制作した。展示室内で実際の作品を前にスケッチする時間で、真剣に作品と向き合う様子が他の観覧者にも好印象をもたれていた。制作した作品は、キッズ TARO 展の募集作品と一緒に展示し、美術館を制作から発表の場として展開した。

場 所 企画展示室、創作アトリエ、ギャラリースペース
対 象 中学生以下
参加人数 ①6名、 ②20名

<第9回キッズ TARO 展—テーマ「〇〇の美術館」—>

日 時 2019年10月26日(土)～11月24日(日) 9:30～17:00
内 容 自由な発想で、独創的な作品を作り続けた岡本太郎。その精神を受け継ぎ、子どもの無邪気で自由な表現の場として、第9回目となるキッズ TARO 展を開催した。今年のテーマ「〇〇の美術館」のもと、幅広い作品が集まった。

場 所 ギャラリースペース
対 象 中学生以下
応募者数 57点(絵画37点 立体20点)

<太郎さんと音あそび>

日 時 2019年10月30日(水) 10:30～11:30
内 容 はいはい&よちよち美術館ツアーの特別版として、ゲスト講師を迎え音楽や音を盛り込んだ内容にした。美術館の中で音と一緒に作品を楽しむ内容親子で一緒に鑑賞を楽しみ、お子さんの反応を確かめながらお子さんの様子を通して作品をみてもらったり、作品を介しての親子のコミュニケーションを図ったりなど、小さな子に無理なく美術館の雰囲気味わってもらおう鑑賞会を行った。

場 所 ガイダンスホール～常設展示室
対 象 1～2才の幼児とご家族
講 師 寒川晶子(ピアニスト)
料 金 無料(要観覧料)
参加人数 11組(23名) 事前電話受付

専修大学インターンシップ学生企画

<顔は宇宙だ キャンバスだ>

日 時 2019年11月17日(日) ①10:00～11:30 ②13:30～15:00
内 容 どんな生き物でももっている顔を岡本太郎はどのように表現したのか、常設展をまわりながら、岡本太郎の「顔」についてのワンポイントトークをし、色画用紙で太郎の顔のパーツを思い思いに組み合わせたり、描き加えたりしながら、みんなの新しい太郎作品を制作した。作品や太郎についての情報を触れながら学生視点の鑑賞ツアーは好評で、アトリエに移動してからも学生から参加者に積極的に話しかけており、賑やかな楽しいイベントとなった。

場 所 常設展示室、創作アトリエ
料 金 無料(要観覧料)
参加人数 ①15名(子ども5名/大人10名) ②11名(子ども6名/大人5名)

<光るちょうこくをつくろう!>

日 時 2019年12月1日(日) 13:30～15:00
内 容 岡本太郎は、《光る彫刻》《若い時計台》など、光を造形素材として取り込んだ作品を制作している。参加者にも“光”をひとつの素材として使い他の材料と組み合わせて“光る

	ちょうこく”をつくった。ペットボトルなどに紙粘土を貼り付け、中に LED ライトを入れ灯し光によるオブジェが出来あがった。
場 所	創作アトリエ、企画展示室、ガイダンスホール
対 象	小学生～どなたでも
料 金	500 円+要観覧料
参加人数	31 名 事前電話受付

<未知なる現象を探ろう！「実験工房」佐藤慶次郎の世界>

日 時	2019 年 12 月 14 日（土） 13：00～15：30
内 容	佐藤慶次郎は「実験工房」の作家で、岡本太郎も大いにバックアップしていた。ワークショップは、作品を鑑賞した後に、作家が実際に使用していた道具等を用いた動くオブジェの制作、展示を行うことで、佐藤慶次郎が没頭していた世界に迫った。他の作品を真似しようとしても再現不可能であり、自分だけが発見した動きや形を全面に押し出した作品が完成した。

場 所	創作アトリエ、企画展示室、ガイダンスホール、ギャラリー（約 1 週間展示）
対 象	小学生高学年以上
料 金	500 円+要観覧料
参加人数	12 名 事前電話受付

<「字は絵だろ」書で遊ぶ>

日 時	2020 年 1 月 12 日（日） 13：00～15：30
	パフォーマンス：13:00～13:45 ワークショップ：14:00～15:30
内 容	無心に字を書いていると自然に絵になってしまうという岡本太郎。現代書家である浅田聖子氏のパフォーマンスをみた後、参加者自身がかきたい文字をそれぞれ表現した。色紙や今年のカレンダーなどに字を書いたり色をつけたりし思い思いに楽しんでいた。
講 師	浅田聖子(書家)
場 所	創作アトリエ、ガイダンスホール、常設展示室
対 象	小学生以上どなたでも
料 金	300 円+要観覧料
参加人数	ワークショップ：36 名（事前電話受付） パフォーマンス：106 名

<文化財ポスター展>

日 時	2020 年 1 月 29 日（水）～2 月 9 日（日）
内 容	神奈川県教育委員会で行われる、文化財保護ポスター展の作品から、川崎市内の中学生による作品を美術館のギャラリースペースに展示し、来館者に観ていただいた。
場 所	美術館ギャラリースペース
展示点数	17 点

<大人のための TARO アトリエ>

日 時	2020 年 2 月 16 日（日） 10：00～12：30
内 容	岡本太郎の制作背景を踏まえながら、作品についての鑑賞ツアーの後、常設展示室内で気に入った岡本太郎作品のスケッチをする内容。展示室内では鉛筆のみの使用が認めら

れているが、今回は特別に色鉛筆などの色材の使用を可とし、太郎ワールド広がる展示室でじっくり作品と自分の絵と向き合う時間となった。

場 所 常設展示室、創作アトリエ
料 金 無料（要観覧料）
対 象 20 歳以上
参加人数 8 名

<Taro バースデーコンサート>

日 時 2020 年 2 月 24 日（月・振休） 14:00 ~15:00
内 容 岡本太郎の誕生日（2 月 26 日）を祝って、コンサートを開催。今年は、藤原歌劇団の団員によるオペラの公演を行った。
場 所 美術館ギャラリースペース
出 演 楠野麻衣（ソプラノ）、市川宥一郎（バリトン）、瀧田亮子（ピアノ）／（藤原歌劇団）
対 象 どなたでも（当日先着順）
料 金 無料（椅子席 70 席は要観覧券・先着順）
参加人数 150 名

~~<ナイトミュージアム特別篇—太郎を極める—>~~ 【新型コロナウイルスの影響で中止】

日 時 2020 年 3 月 7 日（土） 17:00~20:00
内 容 学芸員のギャラリーツアーと普段見ることの出来ないバックヤードの一部を公開する大人限定のイベント。開館 20 周年の特別編として、岡本太郎のプライベートフィルムを上映しながらカフェで太郎の好んだお酒（焼酎）と太郎レシピのおつまみを楽しんでもらう内容にし、プライベートの太郎を知ってもらう機会とした。
場 所 企画展示室、バックヤード、収蔵庫、カフェ、ショップ
対 象 20 歳以上
講 師 学芸
料 金 2500 円（入館料、ミュージアムショップ 500 円券、太郎のお酒おつまみセット券 付き）
参加人数 【中止】 事前電話受付

[課題・反省等]

・学校団体の受け入れについては、春から秋の常設展示室工事の影響が大きく、昨年よりも学校数が減少する形となったが、昨年度試行した複数の鑑賞方式については、各学校のリクエストに応じた形で対応する中、対話型鑑賞とワークシートを併用する形など、安定した運用ができてきている。

・今年は開館 20 周年であるため、ラゾーナ川崎で行った TARO 鯉や、中原図書館・高津市民館で開催した出張展示など館外へ出での PR 活動も増えた。また各イベントの中で、20 周年記念バージョンとして少し拡大や特色を出すなどして、周年を盛り立てる内容を心掛けた。

・乳幼児向けのツアーは回数を重ねて来館者サービスとして定着し、毎回申し込みは定員となるなど好評のイベントとなったため、今年の 10 月には同年齢層の子どもと家族をターゲットに、講師を招いた「音あそび」のワークショップも開催した。小さい子どもを対象とするため内容などはより検討していく必要があるが、今後も同様の試みをしていきたい。

・子供向けのイベントについては、iPad を使うもの、展示作品と関連して制作を行うものなど、新規の内容で各種ワークショップを行った。3 年目となる夏季休暇中の中学生向けのツアーも需要が

あり、今後も改訂しながら引き続き実施をしていきたい。大人向けのイベントでは、定番として「ナイトミュージアム」を開催したほか、3度目のプレミアム TARO ナイトも好評だった。「大人のための TARO アトリエ」は、昨年度までの「塗り絵」からステップアップし、展示室での模写スケッチも含めた制作型のワークショップとして開催し、好評だった。

・専修大学からは今年度もインターンシップの受け入れを行い、ワークショップを行った。参加した学生の熱意もあり、例年以上に様々な形で大学側との連携が深められたと思う。

[外部評価] 意見 (評価できる点や課題など) [A : 十分に達成 B : 概ね達成 C : 達成に至らず]

・市民ミュージアムに行っていた学校からの受入れ増など、今後の課題も多いと思う。
・普及活動は、質・量ともに充実してきたことがよく感じとれる。写真を拝見すると、どれも生き生きとしていて静的な作品鑑賞とはまた楽しみに満ち溢れているといたい。この実績とペースをキープし、学校教育での欠落部を補うほどの成果を挙げてもらいたいと思う。

・対象も0歳児から親まで楽しめるような行事を、信じられないほど多く行っていると感心する。近隣にお子さんが遊べる場所があるので、そのついでに来てもらえる美術館になっていると思う

・学校、一般、乳幼児といった、非常に幅広い来館者層それぞれに対応したプログラムを、数多く、また一つ一つ丁寧に実施している点を評価した。特に、学校向けのプログラムにおいて、先方の立場に立ち、学校がより活用しやすいプログラムを志向し、提供している点、また美術の未来を担う乳幼児に対して、視覚だけでなく聴覚など五感を刺激するプログラムを新たに開発するなど、常にチャレンジをしている点を高く評価する。

A

5 広報活動

事業名	広報活動
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・20周年を基軸に企画展やイベント毎の特色を生かし、より効果的な広報を行う。 ・生田緑地施設や地域等と連携し、さらなる広報拡大を行う。 ・都内・首都圏へのPRを継続し認知を浸透させる。 ・インターネットを活用した迅速な広報、告知を行う。
内容	<p>有料広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅貼りポスターの継続実施（都内・首都圏） ・川崎市立図書館レシート表面広告 ・広報誌「TARO ニュース」刊行 <p>無料広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小田急・JR・商店街へのポスター配布、川崎駅展示コーナー、市政だより（※1）、登戸駅デッキへフラッグ掲示、市内セブンイレブンのポスター掲示、JR登戸駅電光掲示板など ・東急電鉄川崎市内駅構内へのポスター掲示を継続実施 ・プレスリリースによる新聞雑誌WEBへの告知 ・会期中主要マスコミへの掲載依頼 ・展覧会ちらし・ポスターを他美術館等へ配布・掲示 ・インターネット活用による広報（美術館HP、SNS、外部ページへの登録・配信） ・プレス内覧会の実施 ・TARO賞授賞式でのプレス対応

内部評価(自己点検)

[実施状況・成果等]

- ・広報掲示板やフラッグ掲示、実行委員会による記念うちわ配布など20周年のPRを大きく実施。
- ・積極的なSNSの活用。著名人の目に留まり、多くの人へ情報が拡散された。
- ・報道関係者へのメールリリースをレセプション直前にも行い、事前申込人数の増加に繋がった。
- ・展覧会ごとの世代別統計を導入。アンケートだけでは見えない来館者の層を数値化した。（※2）

[課題・反省等]

- ・首都圏、周辺地域のPRを継続して行う。
- ・来館者アンケートや世代別統計、SNSでの反応を分析しながらより効果的なPRに努める。

[外部評価] 意見（評価できる点や課題など） [A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

- ・メトロなどの駅貼り有効だと思う。
- ・美術ファンたちの行動は、案外にパターン化されているものである。駅でいえば上野、竹橋、乃木坂、六本木、両国、初台、白川清澄、そして向ヶ丘遊園駅の周辺をうろつくことが圧倒的に多い。従ってポスターもその辺りが狙い目となる。少しでも効率よく掲

B

示してもらいたい。

・予算が多くないなか、努力されている。SNS の使い方、HP の使い方は工夫の余地がありそうに思える

・駅貼りポスター増、SNS の活用、展覧会ごとの世代別統計分析などを評価できる一方で、20 周年にひもづいた企画展への来場者数が想定を下回ったことと広報の関係を考え、より効果的な広報を行ってほしい、という観点から、この評価とした。SNS での発信は、より頻度を増してもよいと感じる。

6 施設・設備の整備

事業名	施設・設備の整備
目標	開館から20年を経過し、建物・設備が老朽化しており、施設の長寿命化及び作品の保全、市民の施設利用の利便性の向上、安全・安心の確保を図るため施設の計画的な更新・補修を行う。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・和式便座の洋式便座（前広便座※オストメイト対応）への交換 ・女子トイレに擬音機の設置 ・エントランス自動ドアの交換補修 ・照明制御装置の補修 ・空調設備の補修 ・電話交換機及び自動応答機器、固定電話機の交換

内部評価(自己点検)

[実施状況・成果等]

今年度は、開閉音が大きく一部破損も見られたエントランス自動ドアの交換や和式から洋式便器への設備交換など来館者に直接関わりがある部分の改善と併せ、照明の中央コントロール装置・空調設備・電話設備など経年による不具合が発生した箇所の補修を行い、施設設備の安定化に努めた。

[課題・反省等]

経年劣化等により突発的な設備故障も多くなってきており、計画的な設備補修と併せて、緊急補修に対応することが必要となる。

[外部評価] 意見（評価できる点や課題など）[A：十分に達成 B：概ね達成 C：達成に至らず]

・20年を経て様々な補修も必要だと思う。雨漏りなどは早急に修理を。
 ・施設の老朽化という、どこにでもある課題と真剣に向き合っていく必要があるようだ。当館はとくに山の中腹にあるため、湧き水などの被害も少なくないと推測する。しかしながら、集中豪雨の標的にはかえってなりにくく、大きな被害よりも日常のささいな故障が問題なのだろう。収蔵庫周辺には、念には念を入れてチェック願いたい。
 ・雨漏りがあったと聞きました。計画的に修繕の必要がありそうです、
 ・老朽化した建物・設備の補修や、来館者に直接関わる設備の改善などを、計画に従い実施できたということから、この評価とした。

B